

# \*\*\* 今日の健康(7月) \*\*\*

## < 帯状疱疹 >

帯状疱疹は、みずぼうそうと同じウイルス(水痘・帯状疱疹ウイルス)によって起こります。ほとんどの人が子供のときにみずぼうそうにかかりますが、このウイルスは、みずぼうそうが治っても神経節の中に潜んでいます。後になって、疲れがたまったり、体の抵抗力が落ちたときにウイルスが再び暴れ出し帯状疱疹として発症します。

### ●主な症状

身体の左右どちらか一方に、チクチクするような痛みが起こることから始まります。赤い発疹や水ぶくれは神経の支配領域に沿って帯状に現れます。特に胸から背中、腹部などによくみられます。そのほかには顔や頭、手、足にもみられますが、一度に2カ所以上の部位にできることはほとんどありません。皮膚症状とともに、あるいは皮膚症状より先に痛みを生じます。通常、痛みが起こり始めてから、水ぶくれがかさぶたになって治るまで、約3週間～1カ月間かかります。



### ●痛みの特徴

一般に二十歳くらいまでの人では、皮膚症状が治るころには痛みはなくなり、帯状疱疹後の神経痛もほとんど残りません。しかし、年齢が高くなるほど痛みが残りやすく、人によっては長い間にわたって痛みが残ることもあります。この痛みをがまんしないことが大切です。痛みが持続すると痛みを感じる部分の感受性が高まり、普通は痛みとして感じない程度の刺激でも痛みを感じるようになり、痛みが治りにくくなることがあります。

### ●感染性

帯状疱疹が人にうつることはほとんどありませんが、水ぶくれの中にはみずぼうそうの原因となるウイルスがいるので、みずぼうそうにかかったことのない人にはうつることがあります。この場合、帯状疱疹ではなくみずぼうそうの症状が出ます。

帯状疱疹にかかったときには、水ぶくれが治るまで、みずぼうそうにかかったことのない子供の近くに寄ったり、直接触れたりしないほうがよいでしょう。

### ●治療

ウイルスの増殖を防ぎ、皮膚症状や痛みを抑える抗ウイルス薬を使用します。抗ウイルス薬には、飲み薬や塗り薬、点滴などがあります。できるだけ早期から抗ウイルス薬を使うことによって、症状の悪化を防ぎ、皮膚や神経のダメージを軽くすることが期待できます。